



お魚センター 観光客で大賑わい

～5連休にリニューアルオープンイベント

■お魚センターのリニューアルオープンイベントが9月19日から23日までの5日間行われました。イベント中は、漁師鍋の提供や鮮魚販売などがあり、毎日多くの観光客で賑わいました。初日の19日には、リニューアルオープニングセレモニーが行われ、それに合わせてイセエビの漁師鍋200食が振る舞われました。来館者は、おいしそうに残さず食べていました。

おばあちゃんと一緒に訪れていた湯田廉君（立神小5年）は「漁師鍋がとてもおいしかった。大水槽を見るのも好き。また行きたい」と満足そうに話してくれました。

記念セールは10月20日までで、フィッシュなどが当たる抽選会もあります。同時に、2階催場では、枕崎の風景を描く絵画展を10月18日まで開催しています。



桂三枝さん率いる一座が笑いで大暴れ

～「三枝一座がやってきた！」公開録画 10月9日放送予定

■「三枝一座がやってきた！」の公開録画が9月17日、市民会館で行われ、約900人が観覧し会場は終始笑いに包まれていました。

番組の内容は、落語家の桂三枝さんを座長とする笑いの一座が、訪れた地域のさまざまな話題を紹介しながら、ふるさと落語を創作・披露するものです。司会者に相田翔子さん、ゲストには原口あきまささんや博多華丸・大吉さんなど豪華な顔ぶれとなりました。

写真は塩屋地域の十五夜綱引きの様子。番組は10月9日（金）午後9時から衛星第2テレビ（BS2）で全国放送される予定です。お腹を抱えて笑ってください！

威勢のいい掛け声に活気づく

～第64回さつま鯉節産地入札即売会

■さつま鯉節産地入札即売会が9月10日、枕崎加工組合入札会場で開催され、市内の28社が出品し、全国から集まった54社100名の仲買人らが、コンペアーで運ばれてくるかつお節に次々と値を付けていきました。

最高級の仕上げ節のうち本節はキロ当たり平均1,877円（対前年比35円高）、亀節は1,773円（同40円安）。その他を合わせた売上総額は2億5,218万4,167円でした。

鯉節類については、高騰していた魚価相場が円高により適正価格の方向に落ち着きつつあり、今回の相場もこれに連動したのになったようです。



歯周病や救急医療について深く学ぶ

～第31回市民健康教室を開催

■市民健康教室が9月12日、市民会館で開催され、約350名が参加し、健康相談や健康食の試食、救急シミュレーション、心肺蘇生コンテストのほか、さまざまな催しが行われました。

また、健康指導員による寸劇の上演や、筋トレサロン講座を受講している高齢者の方々が「あこがれのハワイ航路」のリズムにのせ踊りを発表すると、会場から大きな拍手が送られていました。

講演では「口は万病の元、体を蝕む歯周病」と題し鹿児島大学病院の野口和行教授が「口は細菌の通り道。口の健康を守ることが、全身の健康を生み出す」と話しました。

【心肺蘇生コンテスト結果：12チーム参加】

①別府保育園 ②別府保育園家庭教育学級 ③南方園



木に触れて 温もりを感じて

～南薩木青年会が金山小学校で出前講座

■南薩地域の製材業者の若手約10名で構成される南薩木青年会（水道大 会長）の出前講座が8月30日、金山小学校で行われました。

同小学校の児童約20名が参加し、木材の切り方や釘の打ち方などを教えてもらいながら、プランターを載せる台や砂場の木枠などを次々に作製しました。

この体験をとおして、神門百香さん（5年）は「わくわく砂場の木枠が新しくなって、どんどん遊びたくなった」と話してくれました。

南薩木青年会では、このような活動を年5回ほど開催し、木材に対する理解と、木特有の温もりを子どもたちに伝えています。



更なる安全安心なまちづくりを後押し

～立神地区防犯パトロール隊に防犯グッズを貸与

■立神地区防犯パトロール隊（田中幸喜 隊長）が9月15日、地域安全安心ステーションから防犯グッズの貸与を受け、枕崎警察署で貸与式がありました。

立神地区防犯パトロール隊は、平成18年に子どもたちの安全を守るために結成され、定期的に青色回転灯装着車両（通称 青パト）で防犯パトロールを実施しています。今回の貸与は、日頃の防犯活動が認められたものです。

田中隊長は「有効に活用し、立神地区、ひいては枕崎の安全安心のため力になれば」とあいさつしました。

貸与されたのは、パトロールベストやサイレン付きメガホンなど約10品目。今後も頑張ってください。



本格的なダシとりで鯉節の風味引き立つ

～富士・第2ふじ保育園が「ダシとり教室」

■鯉節を使った「ダシとり教室」が9月11日、第2ふじ保育園で稲葉泰三さんを講師に迎え行われました。稲葉さんは、東京で鯉節の販売や、ダシとり教室の講師をしています。

参加した富士・第2ふじ保育園の園児約40名と保護者約10名は、鯉節からの本格的なダシとりの技術を学び、実際にお吸い物を作り、おいしく頂きました。

稲葉さんは「本枯れ節を使うと味がよく、2度ダシもとれて経済的。自分で削ってとったダシで家庭の味を作ってほしい」と話しました。

参加した柴村賢矢君（5歳）は「削った鯉節を食べて、お吸い物を飲んで、とってもおいしかった」と話してくれました。



大海原へ 期待を胸に

～鹿児島水産高校 薩摩青雲丸がハワイ沖へ出港

■鹿児島水産高校の実習船、薩摩青雲丸の出港式が9月17日、枕崎港外港で行われました。

今回の航海には海洋科機関コース生9名、専攻科生9名が乗船。約70日のハワイ沖などへの遠洋航海で、マグロはえ縄漁や海洋観測を行います。

生徒を代表して川畑泰大君（2年）が「元気で帰ってきて成長した姿を見せたい。いっぱい帰ります」と力強くあいさつしました。

また、海洋機関コースの女子生徒として初乗船となる松崎友紀さん（2年）は「マグロはえ縄漁を楽しみにしている」と期待を胸に出港していきました。